



2017. 3. 1

## 3月ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

今年度の最後の月を迎えました。4月からの1年間、子どもたちの成長は著しいものがありました。年度当初は、環境も変わり多くの子どもたちが遊びに集中できずにいたのかも知れません。特に年少児は初めての環境の中で遊ぶことがままならない状況でしたが、今では園庭で熱中して遊んでいるときは雨が降ってきたのも気付かず遊びこんでいることもあります。年中児は友だちとの関わりや遊びもどんどんひろがっています。中には意見の違いや自分の気持ちをうまく伝えられずに、ぶつかってしまうこともあります。相手の気持ちに気づくことで、ちゃんと折り合いを付ける力もついてきているようです。そして、年長児は幼稚園生活の集大成の時期を迎え先日の劇発表会でも各々の持っている力を遺憾なく発揮することができていました。この4月から始まる小学校生活に向けてのひとりひとりがその準備を行なっているように思えます。

「心がはずむ」とは、良いことが起きる予感を得て興奮している表現で喜びや楽しい期待のために、心がうきうきする様を言います。子どもたちにとってこの時期は進級や進学に向けて新しい出会いに「なかまと心はずませて」過ごしている時期なのかも知れません。このように新しい出会いや環境に期待を持って過ごすことができるのは、今の自分の状態を「良し」と思える自信がないとそのように思えないのではないのでしょうか。それでは、「良し」思えるその自信はいったいどこから来るものなのでしょうか。家族との関係、あるいは友だち、先生との関係、そして、神さまの存在、その関係性の中で自分を「良し」と思えるたくさんの経験、自分は愛されているという感覚、そして絶対的な大きな力に守られているという安心感、そのような感覚が自信へとつながっていくのではないのでしょうか。

今月の聖句は“主はわたしたちの光、わたしたちの救い、わたしは誰を恐れよう”という旧約聖書の詩編の一節です。ここでは神への確かな信頼が大きな力となって誰も恐れることはないという自信になっていることが読みとれます。まさに、子どもたちにとっての光や救いは安心感ではないのでしょうか。

幼稚園生活は子どもたちが親や家族以外の人たちや存在に出合う最初の場面です。この時期に親や家族を信頼し、友だちや先生を信頼し、神さまを信頼することで自分が愛され守られていることを実感し揺るぎない自信を持って成長していくことができると信じています。そしてそのような大事な時期に子どもたちと関わり保護者の方たちとともに、子どもの成長に携わることの喜びと素晴らしさを感謝して、今年度を締めくくりたいと思います。

年主題 『平和』をともに

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書5章9節)

3月主題 「なかまと心はずませて」

聖句 “主はわたしたちの光、わたしたちの救い、わたしは誰を恐れよう”

(詩編27編1節)